

クラスタ環境でのアップグレード手順

(SigmaSystemCenter 2.0 から SigmaSystemCenter 2.1 Update 2 へのアップグレード)

概要

本手順は、クラスタ環境に構築された SigmaSystemCenter 2.0 を SigmaSystemCenter 2.1 Update 2 にアップグレードインストールする際の手順について記載します。

本手順では CLUSTERPRO X 2.0 を使用した場合の具体的な手順を記載しています。

他のクラスタ製品、または、別バージョンの CLUSTERPRO を使用されている場合は、「アップグレードインストール手順の流れ」を参考にして、アップグレードインストールを行ってください。

本手順は、SigmaSystemCenter 2.0 で データベースに SQL Server 2005 Enterprise Edition または、Standard Edition を使用していることを前提としています。

その他のクラスタ環境構成、前提条件については「クラスタ環境構成、前提条件」をご参照ください。

関連マニュアル

本書内で参照するマニュアルは以下の通りです。

- ・SigmaSystemCenter 2.0 クラスタ構築資料 第2版
- ・SigmaSystemCenter 2.1 クラスタ構築資料 第1版
- ・SigmaSystemCenter 2.1 インストレーションガイド 第3版
- ・SigmaSystemCenter 2.1 コンフィグレーションガイド 第3版

クラスタ環境構成、前提条件

本手順では、以下のクラスタ環境構成、前提条件でアップグレードインストールを行うものとして記載しています。

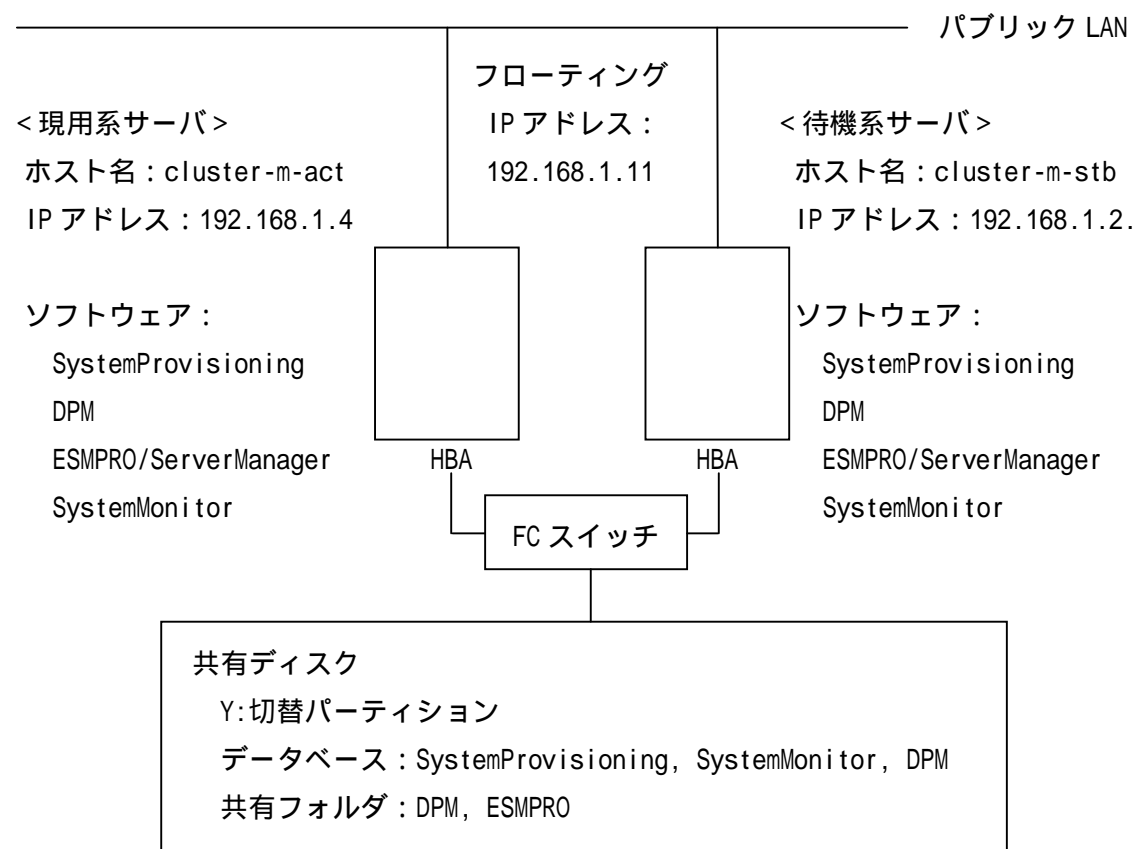
クラスタ環境

現用系：1 台 / 待機系：1 台 の計 2 台による「2 ノード・共有ディスクまたは、ミラーディスク・片方向スタンバイ」構成

共有ストレージ：iStorage S1500 （ HBA による FC 接続 ）

クラスタ構成イメージ（共有ディスクの場合）

（ IP アドレス、ドライブ名などは例です。 ）



前提条件

本手順では、スクリプトリソースにて、データベースのアタッチ、デタッチは現用系サーバ、待機系サーバとも以下であるという前提で記載しています。

- ・ 現用系サーバ
開始スクリプト：アタッチする
終了スクリプト：デタッチする
- ・ 待機系サーバ
開始スクリプト：アタッチする
終了スクリプト：デタッチする

上記と異なる場合は、データベースのアタッチ、デタッチの手順を適宜修正してください。

例えば、以下のように現用系サーバでアタッチ、デタッチしない場合は「アップグレードインストール手順の流れ」の手順のうち、該当する箇所を下記 [変更点] のように変更してください。

- ・ 現用系サーバ
開始スクリプト：アタッチしない
終了スクリプト：デタッチしない
- ・ 待機系サーバ
開始スクリプト：アタッチする
終了スクリプト：デタッチする

[変更点]

5. インストールを行う前に（データベースのアタッチ）

5. の手順でのアタッチは実施不要です。

8. データベースの移行

データベースを共有ディスク / ミラーディスク上に移行した後、データベースのアタッチが必要です。

8. の手順の最後に以下のコマンドを実行してください。

SystemProvisioning のデータベースがアタッチされます。

- ・ SystemProvisioning

```
-----  
sqlcmd -S (local)¥SSCCMDB -E  
1> sp_attach_db 'pvminf',  
    @filename1='Y:¥Data¥pvminf.mdf',  
    @filename2='Y:¥Data¥pvminf_log.LDF'  
2> go  
-----
```

インスタンス名を既定値 (SSCCMDB) より変更した場合、そのインスタンス名を指定してください。

9. データベースのデタッチ

9. の手順のうち、(2), (3) の手順 (DeploymentManager、および、SystemMonitor 性能監視のデータベースのデタッチ) は実施不要です。

(1), (4) の手順 (サービスの停止) のみを行ってください。

アップグレードインストール手順の流れ

アップグレードインストール手順の流れを記載します。

1. 現用系サーバのアップグレード

1.1. 現用系サーバアップグレードの前準備

- (1) CLUSTERPRO のフェールオーバーグループのリソースの削除
 - ・ スクリプトリソースを削除し、監視対象サービスを監視から外す。
 - ・ レジストリ同期リソースを削除し、レジストリを同期対象から外す。
- (2) インストールを行う前に (.NET Framework 3.5 SP1 のインストール)
- (3) インストールを行う前に (必要な各コンポーネントのサービスの手動起動)
 - ・ SQL インスタンスサービスを手動で起動する。
- (4) インストールを行う前に (不要なデータベースの削除確認)
 - ・ SystemProvisioning のデータベースがローカルフォルダに存在する場合、削除する。
- (5) インストールを行う前に (データベースのアタッチ)
 - ・ デタッチされたデータベースをアタッチする。

1.2. 現用系サーバアップグレード作業

- (6) ソフトウェアのアップグレードインストール
 - ・ SigmaSystemCenter 2.1 にアップグレードインストールする。
- (7) サービスの設定
 - ・ サービスを"手動"に設定する。
- (8) データベースの移行
 - ・ SystemProvisioning のデータベースを、共有ディスク / ミラーディスクへ移動する。
 - ・ データベースの移動後、データベースへのアタッチは行わない。
- (9) データベースのデタッチ
 - ・ DeploymentManager、SystemMonitor 性能監視のデータベースをデタッチする。
- (10) 共有ディスク / ミラーディスクへのファイルコピー

- ・ DeploymentManager のファイルを共有ディスク / ミラーディスクへコピーする。

(11)設定ファイルの修正

- ・ DeploymentManager (HP-UX) の設定ファイルを修正する。

(12)使用するポートの変更

- ・ Embedded 版の Tomcat を他のアプリケーションで使用している場合、Web サーバ for DPM が使用するポートを変更する。

(13)クラスタシステムのリブート

2. 待機系サーバのアップグレード

2.1. 待機系サーバアップグレードの前準備

(14)フェールオーバーグループ内のリソースを待機系で起動

(15)インストールを行う前に (.NET Framework 3.5 SP1 のインストール)

(16)インストールを行う前に (必要な各コンポーネントのサービスの手動起動)

- ・ SQL インスタンスサービスを手動で起動する。

(17)インストールを行う前に (不要なデータベースの削除確認)

- ・ SystemProvisioning のデータベースがローカルフォルダに存在する場合、削除する。

(18)インストールを行う前に (データベースのアタッチ)

- ・ データベースをアタッチする。

(19)インストールを行う前に (サービスの設定)

- ・ SystemProvisioning のサービスを "無効" に設定する。

2.2. 待機系サーバアップグレード作業

(20)ソフトウェアのアップグレードインストール (待機系サーバでの作業)

- ・ SigmaSystemCenter 2.1 にアップグレードインストールする。

(21)サービスの設定

- ・ サービスを"手動"に設定する。

(22) データベースの移行

- ・ SystemProvisioning のデータベースを、共有ディスク / ミラーディスクへ移動する。
- ・ データベースの移動後、データベースへのアタッチは行わない。

(23) データベースのデタッチ

- ・ DeploymentManager、SystemMonitor 性能監視のデータベースをデタッチする。

(24) 設定ファイルの修正

- ・ DeploymentManager (HP-UX) の設定ファイルを修正する。

(25) 使用するポートの変更

- ・ Embedded 版の Tomcat を他のアプリケーションで使用している場合、Web サーバ for DPM が使用するポートを変更する。

(26) サービスの停止

- ・ アップグレードインストール中に開始されたサービスを停止する。

3. アップグレード完了後の作業

(27) フェールオーバーグループ内のリソースを現用系で起動

(28) CLUSTERPRO のフェールオーバーグループのリソースの復元

- ・ スクリプトリソース、レジストリ同期リソースを復元する。

(29) クラスタシステムのリブート

(30) CLUSTERPRO での監視対象サービスの監視の停止 (現用系サーバでの作業)

- ・ DeploymentManager、SystemProvisioning の設定を行う。

(31) Web ブラウザのキャッシュクリア (現用系サーバでの作業)

(32) アップグレードインストール後に必要な設定の実施 (現用系サーバでの作業)

(33) フェールオーバーグループ内のリソースを待機系で起動

(34) Web ブラウザのキャッシュクリア (待機系サーバでの作業)

(35) アップグレードインストール後に必要な設定の実施 (待機系サーバでの作業)

- ・ DeploymentManager、SystemProvisioning の設定を行う。

(36)フェールオーバーグループ内のリソースを現用系で起動

4. 管理対象マシンのアップグレード

(37)管理対象マシンのアップグレードインストール

- ・ 管理対象マシンのクライアントサービス for DPM のアップグレードインストールを行う。

アップグレードインストール手順

以降は、CLUSTERPRO X 2.0 を使用した場合の具体的なインストール手順を記載します。

1.CLUSTERPRO のフェールオーバーグループのリソースの削除

この作業は「現用系サーバ」で行って下さい。

(1) CLUSTERPRO のサービス停止

- 1) 作業を行なう現用系サーバに Administrator でログオンします。
- 2) ブラウザを起動し、URL で “ http://localhost:29003/ ” と入力して CLUSTERPRO WebManager を起動します。
- 3) WebManager 画面の上部にある [サービス] ボタンをクリックし、プルダウンメニューから「クラスタ停止 (T)」を選択します。
- 4) 「確認」画面が表示されたら [OK] ボタンをクリックして停止します。
処理が完了するまで、しばらく時間が掛かります。
- 5) しばらくすると「エラー」または「警告」画面が表示されるので [OK] ボタンをクリックします。
- 6) WebManager 画面の左サイドビューに、「停止」というメッセージが表示されている事を確認します。
- 7) CLUSTERPRO WebManager は終了しないで、引き続き次の作業を行ないます。

(2) CLUSTERPRO Builder の起動と構成情報の保存

- 1) WebManager 画面の上部にある [設定] ボタンをクリックし、CLUSTERPRO Builder を起動します。
- 2) 現在の CLUSTERPRO の構成情報を保存するため、CLUSTERPRO Builder の「ファイル

(F)」メニューをクリックし、プルダウンメニューから「情報ファイルの保存 (S)」をクリックします。

- 3) 「保存」画面が表示されたら、現用系サーバ上の任意のフォルダ（例えば C:\TEMP）を指定し、clp.conf というファイル名が表示されているのを確認して [保存] ボタンをクリックします。

(3) スクリプトリソース（またはサービスリソース）とレジストリ同期リソースの削除

- 1) 左サイドビューの中で、[Groups] フォルダの中の [failover] をクリックします。
- 2) 右サイドビューの「リソース一覧」タブをクリックし、フェールオーバーグループに設定されているリソースを表示させます。
- 3) 項目名の「タイプ」で“スクリプトリソース”（または“サービスリソース”）と表示されている部分で右クリックし、プルダウンメニューから「リソースの削除 (R)」をクリックします。
- 4) 「scriptxxx（または servicexxx）が選択されました。」という画面が表示されるので、[はい] をクリックしてアイテムを削除します。
- 5) 項目名の「タイプ」で“レジストリ同期リソース”と表示されている部分で右クリックし、プルダウンメニューから「リソースの削除 (R)」をクリックします。
- 6) 「regsyncxxx が選択されました。」という画面が表示されるので、[はい] をクリックしてアイテムを削除します。

(4) 情報ファイルのアップロードと CLUSTERPRO Builder の終了

- 1) 現在の CLUSTERPRO の構成情報をアップロードするため、CLUSTERPRO Builder の「ファイル (F)」メニューをクリックし、プルダウンメニューから「情報ファイルのアップロード (U)」をクリックします。
- 2) しばらくすると「アップロードは成功しました。」という画面が表示されるので、[了解] をクリックします。
- 3) CLUSTERPRO Builder を終了し、ウィンドウを閉じます。

(5) CLUSTERPRO のサービス開始

- 1) WebManager 画面の上部にある [サービス] ボタンをクリックし、プルダウンメニューから「クラスタ開始 (A)」を選択します。
- 2) 「確認」画面が表示されたら、[OK] をクリックします。
- 3) しばらくすると、WebManager 画面の左サイドビューにクラスタ構成画面が表示されます。すべてのアイコンが緑色 (正常) であることを確認します。

=====

2. インストールを行う前に (.NET Framework 3.5 SP1 のインストール)

=====

この作業は「現用系サーバ」で行って下さい。

.NET Framework 3.5 Service Pack 1 のインストールが完了した後、更新プログラム KB959209 のインストールを推奨します。

更新プログラムの詳細およびダウンロードは、以下 URL を参照してください。

<http://support.microsoft.com/kb/959209>

-
- (1) [スタート] メニューから [コントロールパネル (C)] - [プログラムの追加と削除] を選択します。「プログラムの追加と削除」画面で、以下のインストール状況を確認してください。

- ・ 「Microsoft .NET Framework 3.5 Service Pack 1」
- ・ 「Microsoft .NET Framework 3.5 Service Pack 1 日本語 Language Pack」

- (2) インストールされていない場合は、.NET Framework 3.5 SP1 をインストールしてください。

- ・ Microsoft .NET Framework 3.5 Service Pack 1

- 1) SigmaSystemCenter 2.1 CD-R #1 を DVD/CD-RW ドライブに挿入します。

- 2) コマンドプロンプトで以下のコマンドを実行し、インストーラを起動します。

インストール CD-R: ¥dotNet Framework35 SP1¥dotnetfx35.exe

3) 画面に従ってインストールを進めてください。

- ・ Microsoft .NET Framework 3.5 SP1 日本語 Language Pack

1) コマンドプロンプトで以下のコマンドを実行し、インストーラを起動します。

インストール CD-R:¥dotNet Framework35 SP1¥ja¥dotnetfx35langpack_x86ja.exe

2) 画面に従ってインストールを進めてください。

(3) .NET Framework 3.5 SP1 のインストール終了後、OS 再起動を促すメッセージが表示された場合は、以下の手順でクラスタのリブートを行ってください。

1) ブラウザを起動し、URL で "http://localhost:29003/" と入力して CLUSTERPRO WebManager を起動します。

2) WebManager 画面の左サイドビューにある“ クラスタ名 ”を右クリックし、プルダウンメニューから「リブート(B)」を選択します。

3) 「確認」画面が表示されます。[OK] をクリックします。

4) しばらくすると「エラー」または「警告」画面が表示されますので [OK] をクリックします。

5) しばらくすると、現用系サーバと待機系サーバの各 OS が再起動します。

6) OS が再起動したら、作業を行う現用系サーバに Administrator でログインします。

7) ブラウザを起動し、URL で "http://localhost:29003/" と入力して CLUSTERPRO WebManager を起動します。

8) しばらくすると、WebManager 画面の左サイドビューにクラスタ構成画面が表示されます。すべてのアイコンが緑色（正常）であることを確認します。

=====

3.インストールを行う前に（必要な各コンポーネントのサービスの手動起動）

=====

この作業は「現用系サーバ」で行って下さい。

- (1) [スタート] メニューから [コントロールパネル(C)] - [管理ツール] - [サービス] で「サービス」画面を表示し、以下のサービスを開始します。

[DeploymentManager]

- ・ SQL Server (DPMDBI)

[SystemProvisioning] および [SystemMonitor 性能監視]

- ・ SQL Server (SSCCMDB)

インスタンス名を既定値 (SSCCMDB) より変更した場合、サービスの表示名は、
"SQL Server (インスタンス名)" となります。

=====

4. インストールを行う前に (不要なデータベースの削除確認)

=====

この作業は「現用系サーバ」で行って下さい。

- (1) データベースのインストール先フォルダに SystemProvisioning のデータベースファイルが存在しないか確認します。

- 1) データベースのインストール先フォルダ配下に、以下のファイルが存在しないか確認してください。

PVMINF.mdf, PVMINF_log.ldf

ここで“データベースのインストール先フォルダ”とは、SigmaSystemCenter 2.0 の環境を構築する際に、データベースファイルを共有ディスク / ミラーディスクのデータベース格納フォルダに移動したときの、移動元のフォルダを指します。既定値は (%ProgramFiles%\Microsoft SQL Server\MSSQL.n\MSSQL\Data) です。(MSSQL.n はインスタンス ID です。n にはインストールされるコンポーネントの序数が入ります)

- 2) ファイルが存在する場合は、削除してください。

5. インストールを行う前に (データベースのアタッチ)

この作業は「現用系サーバ」で行って下さい。

本手順では、データベースの格納フォルダを以下とした場合を例にして記載します。

- ・ 共有ディスク、またはミラー化されたディスクのデータパーティションを「Y:」
- ・ Yドライブのデータベースの格納フォルダを「Y:¥Data」

SQL インスタンス接続後のプロンプト "1>" に入力するコマンドを、紙面の都合で折り返していますが、実際には1行で入力してください。

それぞれの sqlcmd のコマンド実行後は、「quit」を実行して、SQL インスタンス接続から抜けてください。

(1) DeploymentManager のデータベースのアタッチを行います。

- 1) コマンドプロンプトを起動し、以下のコマンドを実行してください。共有ディスク / ミラーディスクのデータベースにアタッチされます。

```
sqlcmd -E -S (local)¥DPMDBI
1> sp_attach_db 'DPM',
    @filename1='Y:¥Data¥DPM_DATA.MDF',
    @filename2='Y:¥Data¥DPM_LOG.LDF'
2> go
```

(2) SystemMonitor 性能監視のデータベースのアタッチを行います。

- 1) コマンドプロンプトを起動し、以下のコマンドを実行してください。共有ディスク / ミラーディスクのデータベースにアタッチされます。

```

-----
sqlcmd -S (local)¥SSCCMDB -E
1> sp_attach_db 'RM_PerformanceDataBase2',
    @filename1='Y:¥Data¥RM_PerformanceDataBase2.mdf',
    @filename2='Y:¥Data¥RM_PerformanceDataBase2_log.ldf'
2> go
-----

```

インスタンス名を既定値 (SSCCMDB) より変更した場合、そのインスタンス名を指定してください。

(3) SystemProvisioning のデータベースのアタッチを行います。

- 1) コマンドプロンプトを起動し、以下のコマンドを実行してください。共有ディスク / ミラーディスクのデータベースにアタッチされます。

```

-----
sqlcmd -S (local)¥SSCCMDB -E
1> sp_attach_db 'pvminf',
    @filename1='Y:¥Data¥pvminf.mdf',
    @filename2='Y:¥Data¥pvminf_log.LDF'
2> go
-----

```

インスタンス名を既定値 (SSCCMDB) より変更した場合、そのインスタンス名を指定してください。

===== 6. ソフトウェアのアップグレードインストール =====

この作業は「現用系サーバ」で行って下さい。

「SigmaSystemCenter 2.1 インストレーションガイド」を参照して実施してください。

(1) 「SigmaSystemCenter 2.1 インストールガイド」(以下、省略します)の「3.2. インストール (アップグレード) を始める前に」を参照して、注意事項の確認、および、事前作業を実施します。

(2) 「3.5. SigmaSystemCenter 2.0 からアップグレードインストールに向け準備する」にしたがって、以下のコンポーネントのアンインストールを行います。

- Apache Tomcat
- Web サーバ for DPM

(3) 「3.6. 管理サーバコンポーネントをインストール (アップグレード) する」を参照して、アップグレードインストールを行います。

1) 「3.6.3. インストール (アップグレード) を実行するには」の部分は、以下の手順を実施してください。

1. SigmaSystemCenter 2.1 CD-R #1 を DVD/CD-RW ドライブに挿入します。
2. コマンドプロンプトで以下のコマンドを実行し、インストーラを起動します。
インストール CD-R:¥ManagerSetup.exe
3. インストーラが起動し、「SigmaSystemCenter」メイン画面が表示されます。
[インストール] をクリックし、アップグレード対象のコンポーネントのチェックボックスをオンにします。選択完了後、[設定] をクリックします。
4. 「設定」画面が表示されます。
以下の項目を設定し、[OK] をクリックします。
 - [インストール先フォルダ] に SigmaSystemCenter 2.0 で設定していたインストール先フォルダを指定してください。
 - [SQL Server 2005] の [既に存在する SQL Server 2005 インスタンスを使用する] を選択し、SigmaSystemCenter 2.0 で使用していた SQL のインスタンス名を指定してください。
 - [Windows ファイアウォール] の指定をしてください。
5. 「SigmaSystemCenter」メイン画面に戻ります。[実行] をクリックします。
6. アップグレードインストール開始確認のダイアログボックスが表示されます。
[はい] をクリックします。

7. 選択したコンポーネントのインストール（アップグレード）が開始されます。

- 2) 「3.6.4. Java 2 Runtime Environment のインストール」の手順を実施してください。
- 3) 「3.6.5. Apache Tomcat のインストール」の手順を実施してください。
- 4) 「3.6.6. ESMPRO/ServerManager のアップグレードインストール」の手順を実施してください。
- 5) 「3.6.7. Web サーバ for DPM のインストール」の手順を実施してください。
- 6) 「3.6.8. データベース（DPM インスタンス）のアップグレードインストール」の手順を実施してください。
- 7) 「3.6.9. 管理サーバ for DPM のアップグレードインストール」の手順を実施してください。
- 8) 「3.6.10. SystemMonitor 性能監視のアップグレードインストール」の手順を実施してください。
- 9) 「3.6.11. SystemProvisioning のアップグレードインストール」の手順を実施してください。
- 10) 「3.6.12. インストール（アップグレード）を完了するには」の手順を実施してください。

選択したすべてのコンポーネントのインストール（アップグレード）が完了した後、システムの再起動を促すダイアログボックスが表示される場合がありますが、この時点ではシステムの再起動は行わないでください。

- 11) 「3.6.13. 管理サーバ for DPM (HP-UX) をアップグレードインストールする」を参照して、旧バージョンの管理サーバ for DPM (HP-UX)のアンインストールを実施してください。その後、本バージョンの管理サーバ for DPM (HP-UX) のインストールを行ってください。
- (4) 「3.7. 管理サーバコンポーネントをアップグレードインストールした後に」を参照して、アップグレードインストール後に必要な設定を実施します。

- 1) 「3.7.4. ESMPRO/ServerManager をアップグレードインストールした場合」の手順を実施してください。

7. サービスの設定

この作業は「現用系サーバ」で行って下さい。

- (1) [スタート] メニューから [コントロールパネル(C)] - [管理ツール] - [サービス] で「サービス」画面を表示し、以下のサービスを "手動" に設定します。

手動に設定するサービス一覧

[ESMPRO/ServerManager]

- Alert Manager Socket(R) Service
- Dmi Event Watcher
- ESM Alert Service
- ESM Base Service
- ESM Command Service
- ESM Remote Map Service
- ESMPRO/SM Base Service
- ESMPRO/SM Trap Redirection

[DeploymentManager]

- DeploymentManager API Service
- DeploymentManager Backup/Restore Management
- DeploymentManager Client Management
- DeploymentManager client start
- DeploymentManager Control Service
- DeploymentManager Get Client Information
- DeploymentManager PXE Management
- DeploymentManager PXE Mtftp
- DeploymentManager Remote Update Service
- DeploymentManager Scenario Management

- DeploymentManager Schedule Management
- DeploymentManager Transfer Management
- SQL Server (DPMDBI)

[DeploymentManager (HP-UX)]

- DeploymentManager(HP-UX)
- DeploymentManager(HP-UX) Constructor
- DeploymentManager(HP-UX) Watcher

[SystemProvisioning]

- PVMService

[SystemMonitor 性能監視]

- System Monitor Performance Monitoring Service

[SystemProvisioning] および [SystemMonitor 性能監視]

- SQL Server (SSCCMDB)

インスタンス名を既定値 (SSCCMDB) より変更した場合、サービスの表示名は、
"SQL Server (インスタンス名)" となります。

- (2) [スタート] メニューから [コントロールパネル(C)] - [管理ツール] - [サービス] で「サービス」画面を表示し、以下のサービスを "手動" に設定します。

ただし、SigmaSystemCenter 2.0 の構築時に「SigmaSystemCenter 2.0 クラスタ構築資料 第2版」の「1.2. サービスの共用」に記載されている以下のサービスを、スクリプトリソース（またはサービスリソース）によって起動されるように設定した場合にのみ、本手順を実施してください。（サービスがスクリプトリソース（またはサービスリソース）によって起動されるように設定してない場合は、本手順は実施不要です。）

手動に設定するサービス一覧

- SNMP Trap Service
- Apache Tomcat
- DHCP Server
- Windows Management Instrumentation
- ESM Base Service

8. データベースの移行

この作業は「現用系サーバ」で行って下さい。

sqlcmd のコマンド実行後は、「quit」を実行して、SQL インスタンス接続から抜けてください。

SystemProvisioning のデータベースファイルは、アップグレードインストール後に共有ディスク / ミラーディスクから移動されるため、再度、共有ディスク / ミラーディスクにデータベースファイルを戻すために本手順を実施します。

-
- (1) [スタート] メニューから [コントロールパネル(C)] - [管理ツール] - [サービス] で「サービス」画面を表示し、以下のサービスを停止します。

停止するサービス一覧

[SystemProvisioning]
・ PVMService

- (2) SystemProvisioning のデータベースを共有ディスク / ミラーディスク上に移行します。

- 1) コマンドプロンプトを起動し、以下のコマンドを実行してください。ローカルのデータベースがデタッチされます。

sqlcmd -S (local)\SSCCMDB -E
1> alter database [PVMINF] set offline with ROLLBACK IMMEDIATE
2> exec sp_detach_db 'pvminf', true
3> go

インスタンス名を既定値 (SSCCMDB) より変更した場合、そのインスタンス名を指定してください。

- 2) データベースのインストール先フォルダに存在する、データベースファイルを共有デ

ィスク / ミラーディスクへ移動します。

- ・ データベースのインストール先フォルダを
「C:¥Program Files¥Microsoft SQL Server¥MSSQL.1¥MSSQL¥Data」
- ・ 共有ディスク、またはミラー化されたディスクのデータパーティションを「Y:」
- ・ Yドライブのデータベースの格納フォルダを「Y:¥Data」

とした場合

<移動するファイル>

PVMINF.mdf, PVMINF_log.ldf

<移動元>

C:¥Program Files¥Microsoft SQL Server¥MSSQL.1¥MSSQL¥Data

<移動先>

Y:¥Data

9. データベースのデタッチ

この作業は「現用系サーバ」で行って下さい。

sqlcmd のコマンド実行後は、「quit」を実行して、SQL インスタンス接続から抜けてください。

- (1) [スタート] メニューから [コントロールパネル(C)] - [管理ツール] - [サービス] で「サービス」画面を表示し、以下のサービスを停止します。

停止するサービス一覧

[DeploymentManager]

- ・ DeploymentManager API Service
- ・ DeploymentManager Backup/Restore Management
- ・ DeploymentManager Client Management
- ・ DeploymentManager client start
- ・ DeploymentManager Control Service

- DeploymentManager Get Client Information
- DeploymentManager PXE Management
- DeploymentManager PXE Mtftp
- DeploymentManager Remote Update Service
- DeploymentManager Scenario Management
- DeploymentManager Schedule Management
- DeploymentManager Transfer Management

[SystemMonitor 性能監視]

- System Monitor Performance Monitoring Service

(2) DeploymentManager のデータベースのデタッチを行います。

- 1) コマンドプロンプトを起動し、以下のコマンドを実行してください。共有ディスク / ミラーディスクのデータベースがデタッチされます。

```
-----
sqlcmd -E -S (local)\¥DPMDBI
1> alter database [DPM] set offline with ROLLBACK IMMEDIATE
2> exec sp_detach_db 'DPM',TRUE
3> go
-----
```

(3) SystemMonitor 性能監視のデータベースのデタッチを行います。

- 1) コマンドプロンプトを起動し、以下のコマンドを実行してください。共有ディスク / ミラーディスクのデータベースがデタッチされます。

```
-----
sqlcmd -S (local)\¥SSCCMDB -E
1> alter database [RM_PerformanceDataBase2] set offline with ROLLBACK IMMEDIATE
2> exec sp_detach_db 'RM_PerformanceDataBase2',TRUE
3> go
-----
```

インスタンス名を既定値 (SSCCMDB) より変更した場合、そのインスタンス名を指定してください。

(4) [スタート] メニューから [コントロールパネル(C)] - [管理ツール] - [サービス]

で「サービス」画面を表示し、以下のサービスを停止します。

停止するサービス一覧

[SystemProvisioning] および [SystemMonitor 性能監視]

- SQL Server (SSCCMDB)

インスタンス名を既定値 (SSCCMDB) より変更した場合、サービスの表示名は、
"SQL Server (インスタンス名)" となります。

10.共有ディスク / ミラーディスクへのファイルコピー

この作業は「現用系サーバ」で行って下さい。

- (1) [スタート] メニューから [コントロールパネル(C)] - [管理ツール] - [サービス]
で「サービス」画面を表示し、以下のサービスを停止します。

停止するサービス一覧

[DeploymentManager]

- SQL Server (DPMDBI)

「別のサービスの停止」画面が表示された場合は、[はい(Y)] をクリックして
ください。サービスが停止されます。

- (2) 共有ディスク内、またはミラー化されたディスク内のデータパーティションへ Datafile
フォルダ、PXE フォルダ配下をコピーします

- 管理サーバ for DPM のインストールフォルダを

「D:¥Program Files¥NEC¥DeploymentManager」

- 共有ディスク、またはミラー化されたディスクのデータパーティションを「Y:」

- Y ドライブの Datafile フォルダを「Y:¥Datafile」、PXE フォルダを「Y:¥PXE」

とした場合

<コピー元>

D:¥Program Files¥NEC¥DeploymentManager¥Datafile

D:¥Program Files¥NEC¥DeploymentManager¥PXE

<コピー先>

Y:¥Datafile

Y:¥PXE

「フォルダの上書きの確認」画面が表示されます。[すべて上書き(A)] をクリックしてください。

11. 設定ファイルの修正

この作業は「現用系サーバ」で行って下さい。

(1) DeploymentManager (HP-UX) の以下の設定ファイルに記述を追加して “ 管理サーバ名 ” を設定してください。

<設定ファイル>

%Program Files¥%dpm_hpux¥dpm¥0000¥conf¥opc.properties

上記ファイルのマシン情報のエントリに以下を追加します。

opc.0001.hostname=<管理サーバ名>

例)

opc.0001.hostname=dpm_cluster

12. 使用するポートの変更

この作業は「現用系サーバ」で行って下さい。

Embedded 版の Tomcat を他のアプリケーションで正在している場合、Web サーバ for DPM が使用する Tomcat とのポートが重複するため、DPM の Web コンソールが表示されません。ポートが重複しないように設定する必要があります。
この場合は、ポートの変更を以下の手順に従って変更してください。

ポートが重複していない場合は、本手順を実施する必要ありません。

- (1) [スタート] メニューから [コントロールパネル] - [管理ツール] - [サービス] を選択し、サービススナップインを起動します。
- (2) サービス一覧から "Apache Tomcat" のサービスが停止していることを確認します。
- (3) Tomcat をインストールしたフォルダ¥conf¥Server.xml をテキストエディタで開きます。既定値は (C:¥Program Files¥Apache Software Foundation¥Tomcat 6.0) です。また、Server.xml は事前にバックアップを取っておくことを推奨します。
- (4) Server.xml 内の「8005」、「8080」、「8009」を任意の未使用ポート番号に変更します。それぞれ同じポート番号には設定しないでください。

<注意>

修正後のポートには、SigmaSystemCenter 2.0 で使用していたのと同じポートを指定してください。

- (5) Server.xml を保存し、エディタを閉じてください。

=====

13. クラスタシステムのリブート

=====

この作業は「現用系サーバ」で行って下さい。

- (1) WebManager 画面の左サイドビューにある“クラスタ名”を右クリックし、プルダウンメニューから「リブート (B)」を選択します。

- (2) 「確認」画面が表示されます。[OK] をクリックします。
- (3) しばらくすると「エラー」または「警告」画面が表示されますので [OK] ボタンをクリックします。
- (4) しばらくすると、現用系サーバと待機系サーバの各 OS が再起動します。
- (5) OS が再起動したら、作業を行う現用系サーバに Administrator でログインします。
- (6) ブラウザを起動し、URL で "http://localhost:29003/" と入力して CLUSTERPRO WebManager を起動します。
- (7) しばらくすると、WebManager 画面の左サイドビューにクラスタ構成画面が表示されます。すべてのアイコンが緑色（正常）であることを確認します。
- (8) CLUSTERPRO WebManager は終了しないで、引き続き次の作業を行ないます。

=====

14. フェールオーバーグループ内のリソースを待機系で起動

=====

この作業は「現用系サーバ」で行って下さい。

- (1) WebManager 画面の左サイドビューの [Groups] フォルダの中の [failover] を右クリックし、ポップアップメニューから「移動」を選択します。
- (2) 「サーバ選択（グループ移動）」画面で、移動（フェールオーバー）先の待機系サーバを選択し、[OK] をクリックします。

移動処理が完了するまで、しばらく時間が掛かります。

- (3) WebManager 画面の右サイドビューに表示されている「リソースステータス」が待機系のサーバ側で、すべて“起動済”になることを確認します。

15. インストールを行う前に (.NET Framework 3.5 SP1 のインストール)

この作業は「待機系サーバ」で行って下さい。

.NET Framework 3.5 Service Pack 1 のインストールが完了した後、更新プログラム KB959209 のインストールを推奨します。

更新プログラムの詳細およびダウンロードは、以下 URL を参照してください。

<http://support.microsoft.com/kb/959209>

(1) [スタート] メニューから [コントロールパネル (C)] - [プログラムの追加と削除] を選択します。「プログラムの追加と削除」画面で、以下のインストール状況を確認してください。

- ・ 「Microsoft .NET Framework 3.5 Service Pack 1」
- ・ 「Microsoft .NET Framework 3.5 Service Pack 1 日本語 Language Pack」

(2) インストールされていない場合は、.NET Framework 3.5 SP1 をインストールしてください。

- ・ Microsoft .NET Framework 3.5 Service Pack 1

1) SigmaSystemCenter 2.1 CD-R #1 を DVD/CD-RW ドライブに挿入します。

2) コマンドプロンプトで以下のコマンドを実行し、インストーラを起動します。

インストール CD-R:¥dotNet Framework35 SP1¥dotnetfx35.exe

3) 画面に従ってインストールを進めてください。

- ・ Microsoft .NET Framework 3.5 SP1 日本語 Language Pack

1) コマンドプロンプトで以下のコマンドを実行し、インストーラを起動します。

インストール CD-R:¥dotNet Framework35 SP1¥ja¥dotnetfx35langpack_x86ja.exe

2) 画面に従ってインストールを進めてください。

- (3) .NET Framework 3.5 SP1 のインストール終了後、OS 再起動を促すメッセージが表示された場合は、以下の手順でクラスタのリブートを行ってください。

OS 再起動を促すメッセージが表示されなかった場合は、以降の手順の実施は不要です。

- 1) ブラウザを起動し、URL で "http://localhost:29003/" と入力して CLUSTERPRO WebManager を起動します。
 - 2) WebManager 画面の左サイドビューにある“ クラスタ名 ”を右クリックし、プルダウンメニューから「リブート(B)」を選択します。
 - 3) 「確認」画面が表示されます。[OK] をクリックします。
 - 4) しばらくすると「エラー」または「警告」画面が表示されますので [OK] をクリックします。
 - 5) しばらくすると、現用系サーバと待機系サーバの各 OS が再起動します。
 - 6) OS が再起動したら、作業を行う待機系サーバに Administrator でログインします。
 - 7) ブラウザを起動し、URL で "http://localhost:29003/" と入力して CLUSTERPRO WebManager を起動します。
 - 8) しばらくすると、WebManager 画面の左サイドビューにクラスタ構成画面が表示されます。すべてのアイコンが緑色（正常）であることを確認します。
- (4) クラスタリブート後、待機系へのフェールオーバーグループのリソース移動を行ってください。
- 1) WebManager 画面の左サイドビューの [Groups] フォルダの中の [failover] を右クリックし、ポップアップメニューから「移動」を選択します。
 - 2) 「サーバ選択（グループ移動）」画面で、移動（フェールオーバー）先の待機系サーバを選択し、[OK] をクリックします。

移動処理が完了するまで、しばらく時間が掛かります。

- 3) WebManager 画面の右サイドビューに表示されている「リソースステータス」が待機系のサーバ側で、すべて“起動済”になることを確認します。

=====

16. インストールを行う前に (必要な各コンポーネントのサービスの手動起動)

=====

この作業は「待機系サーバ」で行って下さい。

- (1) [スタート] メニューから [コントロールパネル(C)] - [管理ツール] - [サービス] で「サービス」画面を表示し、以下のサービスを開始します。

[DeploymentManager]

- SQL Server (DPMDBI)

[SystemProvisioning] および [SystemMonitor 性能監視]

- SQL Server (SSCCMDB)

インスタンス名を既定値 (SSCCMDB) より変更した場合、サービスの表示名は、
"SQL Server (インスタンス名)" となります。

=====

17. インストールを行う前に (不要なデータベースの削除確認)

=====

この作業は「待機系サーバ」で行って下さい。

- (1) データベースのインストール先フォルダに SystemProvisioning のデータベースファイルが存在しないか確認します。

- 1) データベースのインストール先フォルダ配下に、以下のファイルが存在しないか確認してください。

PVMINF.mdf, PVMINF_log.ldf

ここで“データベースのインストール先フォルダ”とは、SigmaSystemCenter 2.0 の環境を構築する際に、データベースファイルを共有ディスク / ミラーディスクのデータベース格納フォルダに移動したときの、移動元のフォルダを指します。既定値は (%ProgramFiles%\Microsoft SQL Server\MSSQL.n\MSSQL\Data) です。(MSSQL.n はインスタンス ID です。n にはインストールされるコンポーネントの序数が入ります)

- 2) ファイルが存在する場合は、削除してください。

18. インストールを行う前に (データベースのアタッチ)

この作業は「待機系サーバ」で行って下さい。

本手順では、データベースの格納フォルダを以下とした場合を例にして記載します。

- ・ 共有ディスク、またはミラー化されたディスクのデータパーティションを「Y:」
- ・ Y ドライブのデータベースの格納フォルダを「Y:\Data」

SQL インスタンス接続後のプロンプト "1>" に入力するコマンドを、紙面の都合で折り返していますが、実際には 1 行で入力してください。

それぞれの sqlcmd のコマンド実行後は、「quit」を実行して、SQL インスタンス接続から抜けてください。

-
- (1) DeploymentManager のデータベースのアタッチを行います。

- 1) コマンドプロンプトを起動し、以下のコマンドを実行してください。共有ディスク / ミラーディスクのデータベースにアタッチされます。

```
sqlcmd -E -S (local)\DPMDBI
1> sp_attach_db 'DPM',
    @filename1='Y:\Data\DPM_DATA.MDF',
```

```
@filename2='Y:¥Data¥DPM_LOG.LDF'
2> go
-----
```

(2) SystemMonitor 性能監視のデータベースのアタッチを行います。

- 1) コマンドプロンプトを起動し、以下のコマンドを実行してください。共有ディスク / ミラーディスクのデータベースにアタッチされます。

```
-----
sqlcmd -S (local)¥SSCCMDB -E
1> sp_attach_db 'RM_PerformanceDataBase2',
    @filename1='Y:¥Data¥RM_PerformanceDataBase2.mdf',
    @filename2='Y:¥Data¥RM_PerformanceDataBase2_log.ldf'
2> go
-----
```

インスタンス名を既定値 (SSCCMDB) より変更した場合、そのインスタンス名を指定してください。

(3) SystemProvisioning のデータベースのアタッチを行います。

- 1) コマンドプロンプトを起動し、以下のコマンドを実行してください。共有ディスク / ミラーディスクのデータベースにアタッチされます。

```
-----
sqlcmd -S (local)¥SSCCMDB -E
1> sp_attach_db 'pvminf',
    @filename1='Y:¥Data¥pvminf.mdf',
    @filename2='Y:¥Data¥pvminf_log.LDF'
2> go
-----
```

インスタンス名を既定値 (SSCCMDB) より変更した場合、そのインスタンス名を指定してください。

19. インストールを行う前に (サービスの設定)

=====

この作業は「待機系サーバ」で行って下さい。

- (1) [スタート] メニューから [コントロールパネル(C)] - [管理ツール] - [サービス] で「サービス」画面を表示し、以下のサービスを "無効" に設定します。

無効に設定するサービス一覧

[SystemProvisioning]
・ PVMService

=====

20. ソフトウェアのアップグレードインストール (待機系サーバでの作業)

=====

この作業は「待機系サーバ」で行って下さい。

「SigmaSystemCenter 2.1 インストレーションガイド」を参照して実施してください。

- (1) 「SigmaSystemCenter 2.1 インストレーションガイド」(以下、省略します)の「3.2. インストール (アップグレード) を始める前に」を参照して、注意事項の確認、および、事前作業を実施します。
- (2) 「3.5. SigmaSystemCenter 2.0 からアップグレードインストールに向け準備する」にしたがって、以下のコンポーネントのアンインストールを行います。
- ・ Apache Tomcat
 - ・ Web サーバ for DPM
- 1) 「3.5.1. アンインストールを実行するには」の手順を実施してください。
- 2) 「3.5.2. Web サーバ for DPM のアンインストール」の手順を実施してください。
- 3) 「3.5.3. Apache Tomcat のアンインストール」の手順を実施してください。

4) 「3.5.4. アンインストールを完了するには」の部分は、以下の手順を実施してください。

1. 選択したすべてのコンポーネントのアンインストールが完了すると、「PVMService を開始することができませんでした」警告メッセージが表示されます。[OK] をクリックします。
2. アンインストール完了のダイアログボックスが表示されます。[OK] をクリックします。
3. 「SigmaSystemCenter」メイン画面が表示されます。選択したすべてのコンポーネントが選択不可になっていることを確認し、[終了] をクリックしてください。インストーラが終了します。

(3) 「3.6. 管理サーバコンポーネントをインストール（アップグレード）する」を参照して、アップグレードインストールを行います。

1) 「3.6.3. インストール（アップグレード）を実行するには」の部分は、以下の手順を実施してください。

1. SigmaSystemCenter 2.1 CD-R #1 を DVD/CD-RW ドライブに挿入します。
2. コマンドプロンプトで以下のコマンドを実行し、インストーラを起動します。
インストール CD-R:¥ManagerSetup.exe
3. インストーラが起動し、「SigmaSystemCenter」メイン画面が表示されます。[インストール] をクリックし、アップグレード対象のコンポーネントのチェックボックスをオンにします。選択完了後、[設定] をクリックします。
4. 「設定」画面が表示されます。
以下の項目を設定し、[OK] をクリックします。
 - ・ [インストール先フォルダ] に SigmaSystemCenter 2.0 で設定していたインストール先フォルダを指定してください。
 - ・ [SQL Server 2005] の [既に存在する SQL Server 2005 インスタンスを使用する] を選択し、SigmaSystemCenter 2.0 で使用していた SQL のインスタンス名を指定してください。

- ・ [Windows ファイアウォール] の指定をしてください。
5. 「SigmaSystemCenter」メイン画面に戻ります。[実行] をクリックします。
 6. アップグレードインストール開始確認のダイアログボックスが表示されます。
[はい] をクリックします。
 7. 選択したコンポーネントのインストール（アップグレード）が開始されます。
- 2) 「3.6.4. Java 2 Runtime Environment のインストール」の手順を実施してください。
 - 3) 「3.6.5. Apache Tomcat のインストール」の手順を実施してください。
 - 4) 「3.6.6. ESMPRO/ServerManager のアップグレードインストール」の手順を実施してください。
 - 5) 「3.6.7. Web サーバ for DPM のインストール」の手順を実施してください。
 - 6) 「3.6.8. データベース（DPM インスタンス）のアップグレードインストール」の手順を実施してください。
 - 7) 「3.6.9. 管理サーバ for DPM のアップグレードインストール」の手順を実施してください。
 - 8) 「3.6.10. SystemMonitor 性能監視のアップグレードインストール」の手順を実施してください。
 - 9) 「3.6.11. SystemProvisioning のアップグレードインストール」の手順を実施してください。
 - 10) 「3.6.12. インストール（アップグレード）を完了するには」の手順を実施してください。

選択したすべてのコンポーネントのインストール（アップグレード）が完了した後、システムの再起動を促すダイアログボックスが表示される場合がありますが、この時点ではシステムの再起動は行わないでください。

- 11) 「3.6.13. 管理サーバ for DPM (HP-UX) をアップグレードインストールする」を参照して、旧バージョンの管理サーバ for DPM(HP-UX)のアンインストールを実施して

ください。その後、本バージョンの管理サーバ for DPM (HP-UX) のインストールを行ってください。

(4) 「3.7. 管理サーバコンポーネントをアップグレードインストールした後に」を参照して、アップグレードインストール後に必要な設定を実施します。

1) 「3.7.4. ESMPRO/ServerManager をアップグレードインストールした場合」の手順を実施してください。

21. サービスの設定

この作業は「待機系サーバ」で行って下さい。

(1) [スタート] メニューから [コントロールパネル(C)] - [管理ツール] - [サービス] で「サービス」画面を表示し、以下のサービスを "手動" に設定します。

手動に設定するサービス一覧

[ESMPRO/ServerManager]

- Alert Manager Socket(R) Service
- Dmi Event Watcher
- ESM Alert Service
- ESM Base Service
- ESM Command Service
- ESM Remote Map Service
- ESMPRO/SM Base Service
- ESMPRO/SM Trap Redirection

[DeploymentManager]

- DeploymentManager API Service
- DeploymentManager Backup/Restore Management
- DeploymentManager Client Management
- DeploymentManager client start
- DeploymentManager Control Service

- DeploymentManager Get Client Information
- DeploymentManager PXE Management
- DeploymentManager PXE Mtftp
- DeploymentManager Remote Update Service
- DeploymentManager Scenario Management
- DeploymentManager Schedule Management
- DeploymentManager Transfer Management
- SQL Server (DPMDBI)

[DeploymentManager (HP-UX)]

- DeploymentManager(HP-UX)
- DeploymentManager(HP-UX) Constructor
- DeploymentManager(HP-UX) Watcher

[SystemProvisioning]

- PVMService

[SystemMonitor 性能監視]

- System Monitor Performance Monitoring Service

[SystemProvisioning] および [SystemMonitor 性能監視]

- SQL Server (SSCCMDB)

インスタンス名を既定値 (SSCCMDB) より変更した場合、サービスの表示名は、
"SQL Server (インスタンス名)" となります。

- (2) [スタート] メニューから [コントロールパネル(C)] - [管理ツール] - [サービス]
で「サービス」画面を表示し、以下のサービスを "手動" に設定します。

ただし、SigmaSystemCenter 2.0 の構築時に「SigmaSystemCenter 2.0 クラスタ構築資料 第2版」の「1.2. サービスの共用」に記載されている以下のサービスを、スクリプトリソース（またはサービスリソース）によって起動されるように設定した場合にのみ、本手順を実施してください。（サービスがスクリプトリソース（またはサービスリソース）によって起動されるように設定してない場合は、本手順は実施不要です。）

手動に設定するサービス一覧

- SNMP Trap Service
- Apache Tomcat

- DHCP Server
- Windows Management Instrumentation
- ESM Base Service

22. データベースの移行

この作業は「待機系サーバ」で行って下さい。

sqlcmd のコマンド実行後は、「quit」を実行して、SQL インスタンス接続から抜けてください。

SystemProvisioning のデータベースファイルは、アップグレードインストール後に共有ディスク / ミラーディスクから移動されるため、再度、共有ディスク / ミラーディスクにデータベースファイルを戻すために本手順を実施します。

- (1) [スタート] メニューから [コントロールパネル(C)] - [管理ツール] - [サービス] で「サービス」画面を表示し、以下のサービスを停止します。

停止するサービス一覧

[SystemProvisioning]
• PVMSERVICE

- (2) SystemProvisioning のデータベースを共有ディスク / ミラーディスク上に移行します。

- 1) コマンドプロンプトを起動し、以下のコマンドを実行してください。ローカルのデータベースがデタッチされます。

```
sqlcmd -S (local)\$SSCCMDB -E
1> alter database [PVMINF] set offline with ROLLBACK IMMEDIATE
2> exec sp_detach_db 'pvminf', true
3> go
```

インスタンス名を既定値 (SSCCMDB) より変更した場合、そのインスタンス名を指定してください。

- 2) データベースのインストール先フォルダに存在する、データベースファイルを共有ディスク / ミラーディスクへ移動します。

- ・データベースのインストール先フォルダを

- 「C:¥Program Files¥Microsoft SQL Server¥MSSQL.1¥MSSQL¥Data」

- ・共有ディスク、またはミラー化されたディスクのデータパーティションを「Y:」

- ・Yドライブのデータベースの格納フォルダを「Y:¥Data」

とした場合

<移動するファイル>

PVMINF.mdf, PVMINF_log.ldf

<移動元>

C:¥Program Files¥Microsoft SQL Server¥MSSQL.1¥MSSQL¥Data

<移動先>

Y:¥Data

23. データベースのデタッチ

この作業は「待機系サーバ」で行って下さい。

sqlcmd のコマンド実行後は、「quit」を実行して、SQL インスタンス接続から抜けてください。

- (1) [スタート] メニューから [コントロールパネル(C)] - [管理ツール] - [サービス] で「サービス」画面を表示し、以下のサービスを停止します。

停止するサービス一覧

[DeploymentManager]

- DeploymentManager API Service
- DeploymentManager Backup/Restore Management
- DeploymentManager Client Management
- DeploymentManager client start
- DeploymentManager Control Service
- DeploymentManager Get Client Information
- DeploymentManager PXE Management
- DeploymentManager PXE Mtftp
- DeploymentManager Remote Update Service
- DeploymentManager Scenario Management
- DeploymentManager Schedule Management
- DeploymentManager Transfer Management

[SystemMonitor 性能監視]

- System Monitor Performance Monitoring Service

(2) DeploymentManager のデータベースのデタッチを行います。

- 1) コマンドプロンプトを起動し、以下のコマンドを実行してください。共有ディスク / ミラーディスクのデータベースがデタッチされます。

```
-----
sqlcmd -E -S (local)\¥DPMDBI
1> alter database [DPM] set offline with ROLLBACK IMMEDIATE
2> exec sp_detach_db 'DPM',TRUE
3> go
-----
```

(3) SystemMonitor 性能監視のデータベースのデタッチを行います。

- 1) コマンドプロンプトを起動し、以下のコマンドを実行してください。共有ディスク / ミラーディスクのデータベースがデタッチされます。

```
-----
sqlcmd -S (local)\¥SSCCMDB -E
1> alter database [RM_PerformanceDataBase2] set offline with ROLLBACK IMMEDIATE
2> exec sp_detach_db 'RM_PerformanceDataBase2',TRUE
3> go
-----
```

インスタンス名を既定値 (SSCCMDB) より変更した場合、そのインスタンス名を指定してください。

24. 設定ファイルの修正

この作業は「待機系サーバ」で行って下さい。

- (1) DeploymentManager (HP-UX) の以下の設定ファイルに記述を追加して " 管理サーバ名 " を設定してください。

<設定ファイル>

%Program Files%\dpm_hpux\dpm¥0000¥conf¥opc.properties

上記ファイルのマシン情報のエントリに以下を追加します。

opc.0001.hostname=<管理サーバ名>

例)

opc.0001.hostname=dpm_cluster

25. 使用するポートの変更

この作業は「待機系サーバ」で行って下さい。

Embedded 版の Tomcat を他のアプリケーションで使用している場合、Web サーバ for DPM が使用する Tomcat とのポートが重複するため、DPM の Web コンソールが表示されません。ポートが重複しないように設定する必要があります。

この場合は、ポートの変更を以下の手順に従って変更してください。

ポートが重複していない場合は、本手順を実施する必要ありません。

- (1) [スタート] メニューから [コントロールパネル] - [管理ツール] - [サービス] を選択し、サービススナップインを起動します。
- (2) サービス一覧から "Apache Tomcat" のサービスが停止していることを確認します。
- (3) Tomcat をインストールしたフォルダ¥conf¥Server.xml をテキストエディタで開きます。既定値は (C:¥Program Files¥Apache Software Foundation¥Tomcat 6.0) です。また、Server.xml は事前にバックアップを取っておくことを推奨します。
- (4) Server.xml 内の「8005」,「8080」,「8009」を任意の未使用ポート番号に変更します。それぞれ同じポート番号には設定しないでください。

<注意>

修正後のポートには、SigmaSystemCenter 2.0 で使用していたのと同じポートを指定してください。

- (5) Server.xml を保存し、エディタを閉じてください。

=====

26. サービスの停止

=====

この作業は「待機系サーバ」で行って下さい。

- (1) [スタート] メニューから [コントロールパネル(C)] - [管理ツール] - [サービス] で「サービス」画面を表示し、以下のサービスのうち、開始状態のサービスを停止します。

停止するサービス一覧

[ESMPRO/ServerManager]

- Alert Manager Socket(R) Service
- Dmi Event Watcher
- ESM Alert Service

- ESM Base Service
- ESM Command Service
- ESM Remote Map Service
- ESMPRO/SM Base Service
- ESMPRO/SM Trap Redirection

[DeploymentManager]

- DeploymentManager API Service
- DeploymentManager Backup/Restore Management
- DeploymentManager Client Management
- DeploymentManager client start
- DeploymentManager Control Service
- DeploymentManager Get Client Information
- DeploymentManager PXE Management
- DeploymentManager PXE Mtftp
- DeploymentManager Remote Update Service
- DeploymentManager Scenario Management
- DeploymentManager Schedule Management
- DeploymentManager Transfer Management
- SQL Server (DPMDBI)

[DeploymentManager (HP-UX)]

- DeploymentManager (HP-UX)
- DeploymentManager (HP-UX) Constructor
- DeploymentManager (HP-UX) Watcher

[SystemProvisioning]

- PVMService

[SystemMonitor 性能監視]

- System Monitor Performance Monitoring Service

[SystemProvisioning] および [SystemMonitor 性能監視]

- SQL Server (SSCCMDB)

インスタンス名を既定値 (SSCCMDB) より変更した場合、サービスの表示名は、
"SQL Server (インスタンス名)" となります。

(2) [スタート] メニューから [コントロールパネル(C)] - [管理ツール] - [サービス]

で「サービス」画面を表示し、以下のサービスのうち、開始状態のサービスを停止します。

ただし、SigmaSystemCenter 2.0 の構築時に「SigmaSystemCenter 2.0 クラスタ構築資料 第2版」の「1.2. サービスの共用」に記載されている以下のサービスを、スクリプトリソース（またはサービスリソース）によって起動されるように設定した場合にのみ、本手順を実施してください。（サービスがスクリプトリソース（またはサービスリソース）によって起動されるように設定していない場合は、本手順は実施不要です。）

停止するサービス一覧

- SNMP Trap Service
- Apache Tomcat
- DHCP Server
- Windows Management Instrumentation
- ESM Base Service

=====

27. フェールオーバーグループ内のリソースを現用系で起動

=====

この作業は「現用系サーバ」で行って下さい。

- (1) ブラウザを起動し、URL で“ http://localhost:29003/ ”と入力して CLUSTERPRO WebManager を起動します。
- (2) 左サイドビューの [Groups] フォルダの中の [failover] を右クリックし、ポップアップメニューから「移動」を選択します。
- (3) 「サーバ選択（グループ移動）」画面で、移動（フェールバック）先の現用系サーバを選択し、[OK] をクリックします。
移動処理が完了するまで、しばらく時間が掛かります。
- (4) WebManager 画面の右サイドビューに表示されている「リソースステータス」が現用系のサーバ側で、すべて“ 起動済 ”になることを確認します。
- (5) CLUSTERPRO WebManager は終了しないで、引き続き次の作業を行ないます。

=====

28.CLUSTERPRO のフェールオーバーグループのリソースの復元

=====

この作業は「現用系サーバ」で行って下さい。

(1) CLUSTERPRO のサービス停止

- 1) WebManager 画面の上部にある [サービス] ボタンをクリックし、プルダウンメニューから「クラスタ停止 (T)」を選択します。
- 2) 「確認」画面が表示されたら [OK] ボタンをクリックして停止します。

処理が完了するまで、しばらく時間が掛かります。

- 3) しばらくすると「エラー」または「警告」画面が表示されるので [OK] ボタンをクリックします。
- 4) WebManager 画面の左サイドビューに、「停止」というメッセージが表示されている事を確認します。
- 5) CLUSTERPRO WebManager は終了しないで、引き続き次の作業を行ないます。

(2) CLUSTERPRO Builder の起動と構成情報の復元

- 1) WebManager 画面の上部にある [設定] ボタンをクリックし、CLUSTERPRO Builder を起動します。
- 2) 現在の CLUSTERPRO の構成情報を復元するため、CLUSTERPRO Builder の「ファイル (F)」メニューをクリックし、プルダウンメニューから「情報ファイルを開く (O)」をクリックします。
- 3) 「開く」画面が表示されたら、「1.CLUSTERPRO のフェールオーバーグループのリソースの削除」で保存した、現用系サーバ上のフォルダ（例えば C:¥TEMP）を指定し、clp.conf というファイル名が表示されているのを確認して [開く] ボタンをクリック

クします。

(3) スクリプトリソース（またはサービスリソース）とレジストリ同期リソースの復元確認

- 1) 左サイドビューの中で、[Groups] フォルダの中の [failover] をクリックします。
- 2) 右サイドビューの「リソース一覧」タブをクリックし、フェールオーバーグループに設定されているリソースを表示させます。
- 3) 項目名の「タイプ」で、“スクリプトリソース”（または“サービスリソース”）および“レジストリ同期リソース”が表示（復元）されていることを確認します。

(4) 情報ファイルのアップロードと CLUSTERPRO Builder の終了

- 1) 現在の CLUSTERPRO の構成情報をアップロードするため、CLUSTERPRO Builder の「ファイル (F)」メニューをクリックし、プルダウンメニューから「情報ファイルのアップロード (U)」をクリックします。
- 2) しばらくすると「アップロードは成功しました。」という画面が表示されるので、[了解] をクリックします。
- 3) CLUSTERPRO Builder を終了し、ウィンドウを閉じます。

(5) CLUSTERPRO のサービス開始

- 1) WebManager 画面の上部にある [サービス] ボタンをクリックし、プルダウンメニューから「クラスタ開始 (A)」を選択します。
- 2) 「確認」画面が表示されたら、[OK] をクリックします。
- 3) しばらくすると、WebManager 画面の左サイドビューにクラスタ構成画面が表示されます。すべてのアイコンが緑色（正常）であることを確認します。
- 4) CLUSTERPRO WebManager は終了しないで、引き続き次の作業を行ないます。

=====

29. クラスタシステムのリブート

=====

この作業は「現用系サーバ」で行って下さい。

- (1) WebManager 画面の左サイドビューにある “ クラスタ名 ” を右クリックし、プルダウン-メニューから「リブート (B)」を選択します。
- (2) 「確認」画面が表示されます。[OK] をクリックします。
- (3) しばらくすると「エラー」または「警告」画面が表示されますので [OK] ボタンをクリックします。
- (4) しばらくすると、現用系サーバと待機系サーバの各 OS が再起動します。
- (5) OS が再起動したら、作業を行う現用系サーバに Administrator でログインします。
- (6) ブラウザを起動し、URL で "http://localhost:29003/" と入力して CLUSTERPRO WebManager を起動します。
- (7) しばらくすると、WebManager 画面の左サイドビューにクラスタ構成画面が表示されます。すべてのアイコンが緑色（正常）であることを確認します。

=====

30.CLUSTERPRO での監視対象サービスの監視の停止（現用系サーバでの作業）

=====

この作業は「現用系サーバ」で行って下さい。

アップグレードインストール後の設定を実施する前に、監視対象サービスの監視を停止します。

- (1) [スタート] メニューから [すべてのプログラム(P)] - [CLUSTERPRO Server] - [タスクマネージャ] を開きます。

- (2) 「アプリケーション / サービス名」で表示されている、すべてのサービスの監視を停止します。表示されているサービス名を、1 サービス毎に以下の方法で“非監視”に設定してください。

(サービスを“非監視”に設定する方法)

- ・表示されているサービス名を右クリックします。
- ・[監視停止] を選択し、「実行確認」画面で [OK] をクリックして監視を停止します。
- ・この時、監視対象サービスの [監視状態] が "非監視" に変わることを確認してください。

- (3) 表示されている、すべてのサービスが“非監視”に設定されたことを確認し、タスクマネージャを終了します。

=====

31.Web ブラウザのキャッシュクリア (現用系サーバでの作業)

=====

この作業は「現用系サーバ」で行って下さい。

ブラウザを起動する端末のブラウザキャッシュのクリアを行ってください。

キャッシュクリアの方法については、ご利用のブラウザ毎に異なりますので、別途ご確認をお願いします。

以下、主なブラウザについて記載します。

-
- ・ Internet Explorer 7 の場合

- (1) ブラウザのメニューより、[ツール] - [インターネットオプション] - [全般]タブを選択し、[閲覧の履歴] から [削除] ボタンをクリックします。

- (2) [閲覧履歴の削除] 画面が表示されますので、[インターネット一時ファイル] の [ファイルの削除] ボタンをクリックしてください。

- (3) 確認画面が表示されますので、[はい(Y)] をクリックします。

- ・ FireFox 3.5 の場合

(1) ブラウザのメニューより、[ツール] - [最近の履歴を消去] をクリックします。

(2) [消去する履歴の期間] で [すべての履歴] を選択します。

また、[消去する項目] にて [キャッシュ]、[Cookie] にチェックが入っていることを確認してください。

(3) [今すぐ消去] ボタンをクリックします。

=====

32. アップグレードインストール後に必要な設定の実施（現用系サーバでの作業）

=====

この作業は「現用系サーバ」で行って下さい。

「SigmaSystemCenter 2.1 インストレーションガイド」を参照して実施してください。

本手順では、DeploymentManager が使用する Deploy フォルダ(共有フォルダ)を、以下とした場合を例にして記載します。

- ・ 共有ディスク、またはミラー化されたディスクのデータパーティションを「Y:」
- ・ Y ドライブの Deploy フォルダ(共有フォルダ)を「Y:¥Deploy」

(1) 「SigmaSystemCenter 2.1 インストレーションガイド」(以下、省略します)の「3.7. 管理サーバコンポーネントをアップグレードインストールした後に」を参照して、アップグレードインストール後に必要な設定を実施します。

1) 「3.7.5. Web サーバ for DPM をインストールした場合」の手順を実施を行ってください。

2) 「3.7.7. SystemProvisioning をアップグレードインストールした場合」の部分は、以下の手順を実施してください。

1. SystemProvisioning のアップグレードインストールを行った場合には、SigmaSystemCenter の使用を開始する前に、ライセンスキーを登録してください。

手順に関しては、「SigmaSystemCenter コンフィグレーションガイド」の「1.4 ライセンスキーを登録する」を参照してください。

すべてのライセンスキーの登録完了後、Web コンソールのログアウトを行ってから、PVMService の再起動を行ってください。

(2) DeploymentManager の管理サーバの詳細設定を行います。

- 1) ブラウザを起動し、Web サーバ for DPM に接続します。
- 2) 管理サーバを選択し、アクセスモードを更新モードに変更します。
- 3) [設定] メニューから [詳細設定] を選択し、「詳細設定」画面を起動します。
- 4) [全般] タブを選択し、以下の設定を確認します。
 - ・ IP アドレスに管理サーバ for DPM で使用するフェイルオーバー IP が設定されていること
 - ・ 共有フォルダに「Y:¥Deploy」(共有ディスク、またはミラー化されたディスクのフォルダ) が設定されていること
- 5) [DHCP サーバ] タブを選択し、[DHCP サーバが別のコンピュータ上で動作している] をオンにします。

サービスの再起動を促すダイアログボックスが表示された場合は、該当するサービスの再起動を行ってください。

- 6) [OK] をクリックします。
- 7) ブラウザを閉じて DPM の Web コンソールを終了します。

=====

33. フェールオーバーグループ内のリソースを待機系で起動

=====

この作業は「現用系サーバ」で行って下さい。

- (1) WebManager 画面の左サイドビューの [Groups] フォルダの中の [failover] を右クリックし、ポップアップメニューから「移動」を選択します。
- (2) 「サーバ選択 (グループ移動)」画面で、移動 (フェールオーバー) 先の待機系サーバを選択し、[OK] をクリックします。

移動処理が完了するまで、しばらく時間が掛かります。

- (3) WebManager 画面の右サイドビューに表示されている「リソースステータス」が待機系のサーバ側で、すべて“起動済”になることを確認します。

34.Web ブラウザのキャッシュクリア (待機系サーバでの作業)

この作業は「待機系サーバ」の両方で行って下さい。

ブラウザを起動する端末のブラウザキャッシュのクリアを行ってください。

キャッシュクリアの方法については、ご利用のブラウザ毎に異なりますので、別途ご確認をお願いします。

以下、主なブラウザについて記載します。

- ・ Internet Explorer 7 の場合

- (1) ブラウザのメニューより、[ツール] - [インターネットオプション] - [全般]タブを選択し、[閲覧の履歴] から [削除] ボタンをクリックします。
- (2) [閲覧履歴の削除] 画面が表示されますので、[インターネット一時ファイル] の [ファイルの削除] ボタンをクリックしてください。
- (3) 確認画面が表示されますので、[はい(Y)] をクリックします。

- ・ Firefox 3.5 の場合

- (1) ブラウザのメニューより、[ツール] - [最近の履歴を消去] をクリックします。

(2) [消去する履歴の期間] で [すべての履歴] を選択します。

また、[消去する項目] にて [キャッシュ]、[Cookie] にチェックが入っていることを確認してください。

(3) [今すぐ消去] ボタンをクリックします。

=====

35. アップグレードインストール後に必要な設定の実施（待機系サーバでの作業）

=====

この作業は「待機系サーバ」で行って下さい。

「SigmaSystemCenter 2.1 インストレーションガイド」を参照して実施してください。

(1) 待機系サーバに Administrator でログインします。

(2) 「SigmaSystemCenter 2.1 インストレーションガイド」(以下、省略します)の「3.7. 管理サーバコンポーネントをアップグレードインストールした後に」を参照して、アップグレードインストール後に必要な設定を実施します。

1) 「3.7.5. Web サーバ for DPM をインストールした場合」の手順を実施を行ってください。

=====

36. フェールオーバーグループ内のリソースを現用系で起動

=====

この作業は「現用系サーバ」で行って下さい。

(1) 左サイドビューの [Groups] フォルダの中の [failover] を右クリックし、ポップアップメニューから「移動」を選択します。

- (2) 「サーバ選択 (グループ移動)」画面で、移動 (フェールバック) 先の現用系サーバを選択し、[OK] をクリックします。

移動処理が完了するまで、しばらく時間が掛かります。

- (3) WebManager 画面の右サイドビューに表示されている「リソースステータス」が現用系のサーバ側で、すべて“ 起動済 ”になることを確認します。

=====

37. 管理対象マシンのアップグレードインストール

=====

管理サーバ for DPM をアップグレードインストールした場合、クライアントサービス for DPM のアップグレードインストールが必要になります。

「SigmaSystemCenter 2.1 インストレーションガイド」を参照して実施してください。

-
- (1) 「SigmaSystemCenter 2.1 インストレーションガイド」の「3.8. 管理対象マシンコンポーネントをアップグレードインストールする」および「DeploymentManager ユーザーズガイド基本操作編」の「23.5 クライアントサービス for DPM の上書きインストール」を参照して、クライアントサービス for DPM のアップグレードインストールを実施してください。

以上でアップグレードインストール作業は完了です。

作成日：2009.10.02